



多飲症・水中毒

ケアと治療の新機軸

川上宏人，松浦好徳 編
定価2730円（本体2600円＋税5%）
医学書院
TEL.03-3817-5657

最もやっかいで、有効なケア ができない無力感

「多飲症・水中毒」ケアは、精神科看護において最も厄介な対象の一つといっても過言ではないでしょう。

振り返ると、私は「多飲症・水中毒」について有効な看護ケアを実践したという経験は正直なところありません。私の場合、むしろ戦いでした。少しでもよいケアを提供したいと、専門書や研究文献を探してもそのほとんどが事例報告の類であり、根拠のあるケアを示したものはなかったように思います。このような状況ですから、いつも手探りの状態でした。そして、結果も“水との物理的隔離”と“対症療法”となり、看護ケアを提供したとは言い難く、最後には、屈辱と無力感ばかりが残るという有り様でした。

本書を手にとったとき、ほんとうに有効な実践書なのだろうかと半信半疑でした。また、「待ってました、決定版!」と帯にありましたが、少し大げさではないかというのが、正直な気持ちでした。それほど「多飲症・水中毒」ケアは難しいものであると考えていたからです。

これからのケアの標準に

ところが、読み込んでいくうちに、タイトルどおりの“決定版”と呼べるのではないかと思いました。なぜなら、現場で今すぐ、本書を活用したいという強い思いに駆られたからです。それほど衝撃的な内容でした。それまでの難しい問題に対する模範解答のような手引書であり、専門書といえる内容でありました。

第1部では、誰もが疑問に思う事柄が、Q&Aという形でしかも患者・家族も含めて理解できる内容となっています。

第2部では実践編として看護の実際を根拠に基づいて説明されています。第3部では知識編として医学的なしきもかなり高度な内容について述べられています。第4部では資料編として実際のプログラムを示されています。

本書が、水との物理的隔離つまり行動制限と対症療法という手段に頼りがちなケアを根本から変える「多飲症・水中毒」ケアの概念を変える1冊であると自信をもって勧めることができます。そして、全国の「多飲症・水中毒」ケアに携わる看護者にとって実際に活用できる内容であり、今後「多飲症・水中毒」ケアのスタンダードとなりえます。そして、何よりも「多飲症・水中毒」で苦しむ患者・家族にとってはQOLの大幅な向上が期待できます。

本書はこれからの「多飲症・水中毒」ケアの標準となるばかりでなく、これをもとに、研究が格段と進む予感がします。その意味でも本書の意義は非常に大きなものがあると考えます。著者である川上宏人先生、松浦好徳看護師長、山梨県立北病院の皆さんが「多飲症・水中毒」ケアに挑戦されたこと、ほんとうに素晴らしいと思います。

橋本 茂

四国大学看護学部看護学科
精神看護学准教授
前徳島大学医学部附属病院副看護部長